

■平成28年度執行目標（達成状況） マチオモイ部

部局	課・室	番号	執行目標項目	執行目標の内容	達成状況	主な成果・課題・今後の方向性等	項目 (単位)	根拠計画等	H28年度 実績値	H28年度 目標値
マチオモイ部	学研企画課	1	木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進	地方創生加速化交付金を活用し、各種事業に早期に取り組む。また、国において新型交付金制度創設の情報もあることから、交付金を活用した効果的な事業実施にあたる。	概ね達成	総合戦略の推進にあたり、推進委員会及び市議会に対し、取り組み成果を報告するとともに、庁内本部会議を定期的に開催し、創生交付金情報の共有と創生事業の検討を行った。引き続き、木津川市創生に向け、これまでの創生事業を継続するとともに、効率的な交付金活用と効果的な事業検討に取り組む。	住民基本台帳登録人口(人)	人口ビジョン	75555	75627
マチオモイ部	学研企画課	2	ふるさと納税の増強	ふるさと納税ポータルサイト（ふるさとチョイス）による申込みやクレジット納税を導入するとともに、継続して効果的な取組みの調査研究を進める。	優秀に達成（困難事項・成果大等）	記念品を更新し、20品から68品に増加させるとともに、ふるさとチョイスによるインターネット申し込みを開始したことに伴い、寄附件数は68件から321件と大幅に増加した。引き続き、本市の魅力発信に努めるとともに、記念品の増強に取り組む、寄附件数・金額の増加を図る。	ふるさと納税による寄附件数(件)		321	100
マチオモイ部	学研企画課	3	駅舎再生事業の見直し	平成27年度をもってJR高速化等関連事業費補助金の補助が終了したこと、市内には両駅以外に無人駅が存在すること、また、行財政改革推進委員会による事業仕分けの意見があったことを受け、市とJRが駅舎管理の役割を明確にし事業内容を見直す。	概ね達成	市とJR西日本との役割を明確にし、JRから納入される切符等販売手数料（約200万円）の範囲で事業を継続することとした。上記のことから、平成29年度からは、窓口開設を2.5時間（16:30～19:00）及び前後15分間の開閉準備等とし、継続性のある事業とすることとした。				
マチオモイ部	学研企画課	4	情報セキュリティ強化対策	平成29年7月からは、国・地方を通じたマイナンバーを活用したオンライン情報連携に向け、サイバー攻撃等から自組織の情報、システム、業務を守るための有効な対策を講じる事で、個人情報の流出事故等を防ぎ、市民の情報資産を守る。	概ね達成	総務省「新たな自治体情報セキュリティ強化対策」に基づき、京都セキュリティクラウドを活用した高度なセキュリティ対策を導入し、庁内のネットワークをL2/L3環境からのインターネット分離を実施した。これにより、市民の情報資産を守り、安全な行政システムの体制を整えることが出来た。	セキュリティ強化対応端末数割合(%)		100	100
マチオモイ部	学研企画課	5	ネットを活用した観光集客	昨年度整備したWi-Fiや市プロモーション映像を活用し、訪日外国人の集客マーケティング・外国人観光客の市場への販促など、インバウンド（訪日観光＝日本へ来る外国人観光客）に特化した効果的な海外のFIT市場への宣伝など、国内外の観光集客に向けた情報戦略を講じる。	概ね達成	公開動画については、再生回数1,200回を超え、台湾、米国からのアクセスを中心に海外12カ国からの視聴があった。外国人に木津川市を知ってもらえることが出来た。また、今後の展開として、視聴の多い台湾、米国に向け、外国人観光客の集客を図る。	Wi-Fi接続数(件)		33212	3000
マチオモイ部	観光商工課	1	観光振興施策の推進	お茶の京都をはじめとした、観光振興施策の充実に向け、木津川市観光協会と連携強化を図るとともに、協会の運営・体制強化に継続的に取り組む。	概ね達成	お茶の京都をはじめとした、観光振興施策の充実に向け、木津川市観光協会と連携強化を図るとともに、協会の運営・体制強化に継続的に取り組んだ。事務連絡会を半期を目標に実施する予定であったが、観光振興事業業務委託の毎月報告や、事業案件ごとに進捗状況等の協議を実施することで情報共有を図れたため、簡略化に繋ぐことができた。引き続き、事業を十分に精査し自主財源の確保を促すことで、経費の削減に努める。	観光協会との事務連絡会の回数(回)		1	2
マチオモイ部	観光商工課	2	木津川アート2016の事業実施	木津川アート2016の開催 開催地となる山城地域の児童等と出展作家との交流事業やボランティア確保に努め、協働型アートイベントの充実を図る。	概ね達成	プレイベント「森フェス」では市内在住のアーティストの掘り起しを図ると共に、「若者との繋がりが不十分」という懸念事項に対して集客層のターゲットを「子育て世代」に定めた土台作りを行うなど、狙い通りの成果を得ることができた。木津川アート2016の開催期間には数多くの新規ボランティアが集まり、事業の一翼を担う形となった。新しく取り組んだレンタサイクルやスタンプラリー&グルメマップの導入は、前年度に目標として提示した「木津川アートを通じて各方面に新たな波及効果を起こせる仕組みづくり」を前進させる取り組みとして、ブラッシュアップし今後も継続する。	イベント参加者数(人)		10022	9500
マチオモイ部	観光商工課	3	環の拠点創出事業の推進	キツガワゴンをはじめ、「お茶の京都」と連携し、環の拠点地域等の賑わいづくりを目指す。	一部未達成・成果小	ハード整備については、事業主体となる方の機運醸成を図ることを優先し、市民等とのワークショップにより、外部からの視点や意見も取り入れて、可動式屋台「キツガワゴン」が誕生した。今後も、このような形で市民を核とした企画に、市としても共同参画し、支援をしていき、賑わいの創出を図っていくものとする。キツガワゴン利用のルールづくりや運営主体・管理体制などが未達成。次年度以降は観光協会や商工会などの他協力団体とも協議しながら、進めていく必要がある。	キツガワゴンを活用したイベント数(回)		16	5
マチオモイ部	観光商工課	4	当尾地域力活性化協働モデル事業の実施	当尾地域において、ウォーキング等を活用した観光振興を図り、地域住民と一体となった地域力の活性化を促進する取り組みを推進する。	概ね達成	当尾地域住民や当尾地域の活用を検討している団体等との協議により、地域の活性化に繋がる取り組みを計画し、地域活性化の推進に繋がる事業を検討した。（当尾の郷会館活用計画） また、取り組みの継続性を図り、活動団体とのマッチングを図った。	地元との意見交換回数(回)		5	5
マチオモイ部	観光商工課	5	商工業・中小企業等の活性化	市内商工業者の支援及び市の魅力発信を目的に、地場産業を中心とした「ものづくりフェア」を継続開催する。 関係機関と連携し、地域の実情に即した「地域商業ガイドライン」の見直しに取り組む。市内企業への円滑な支援に向け、市商工会との定期的な情報交換や連携強化に努める。本年度、産業競争力強化法に基づく認定を取得し、関係機関とともに各種支援事業等に係る支援体制の構築に努める。	概ね達成	第4回ものづくりフェア（お茶）を開催。（H28.10.17-H28.10.20）記者発表、市広報、ホームページ等で広く情報発信し、4日間で約520人の来場があった。「地域商業ガイドライン」の見直し、エリアの追加を行った。市商工会との定期的（月1回）な情報交換等を実施した。5月20日付で「創業事業支援計画」認定を取得した。3月19日実施、商工会青年部主催「日本一フェスタ」事業への後援。	ものづくりフェア来場者数(人/日)		130	65

■平成28年度執行目標（達成状況） マチオモイ部

部局	課・室	番号	執行目標項目	執行目標の内容	達成状況	主な成果・課題・今後の方向性等	項目 (単位)	根拠計画等	H28年度 実績値	H28年度 目標値
マチオモイ部	企業立地推進室	1	市内への企業誘致	職員2人体制による積極的かつ広域的な企業誘致活動を実施し、市内への新規立地実現を目指す。 本年度末で失効する「木津川市企業立地促進条例」につき、同種の制度を有する京都府等の動向を見極めながら、市内への立地促進の有効なインセンティブとして活用できるよう、次年度以降の支援制度等に係る検討を進める。 木津中央地区に開校した「京都大学大学院農学研究科附属農場」を活かし、農や食に関する企業誘致を進めるとともに、地元の雇用創出に努める。	優秀に達成（困難事項・成果大等）	専任職員による積極的かつ広域的な取り組みを通じ、4件の新規事業用地取得及び複数企業との具体的協議を継続中。けいはんなや大阪、東京等で開催されたビジネスイベントに参加、出展を行うなど、広くPR活動を実施した。 京都府条例の改正の動きなども確認しながら、木津川市企業立地促進条例の一部改正を実施した（失効期日の延長）。 京都大学大学院農学研究科附属農場と農や食に関する企業との連携を図るとともに、新施設の早期操業開始に向けた支援など、雇用の確保に努めた。	市内への企業誘致を実現した事業所数（件）		4	1
マチオモイ部	農政課	1	木津川市産農産物の販売促進	木津川市産農産物の販売促進 ①大都市圏での「木津川市フェア」の開催 ②市内スーパー等での木津川市産農産物の販売イベントの開催 ③熊野市と連携し、木津川市産農産物の直売の実施	概ね達成	熊野市と連携し木津川市産農産物の直売を実施した。また、イベントへの出店として、6月23日～28日まで「大京都フェアin名古屋」への出店、9月7日～12日まで大丸京都店で開催された「第19回～丹後・丹波・山城～京の味めぐり技くらべ展」への出店、12月～翌年2月までの3ヶ月間、関西国際空港第1ターミナル3Fにあるインバウンド向けセレクトショップ「Region Style」への出品、12月16日～18日まで「平成28年度特別区全国連携プロジェクト魅力発信イベント・まるごとっぽん」（東京都台東区浅草・まるごと広場）への出店、平成29年3月25日～26日にかけて東京都板橋区・ハッピーロード大山商店街で「木津川市フェア2017」の開催を行った。	市内スーパーでの木津川市産農産物の販売イベント（回）		9	9
マチオモイ部	農政課	2	ふれあい農園の在り方について	ふれあい農園について ・ふれあい農園を存続するかしないか検証（利用者にアンケート調査等） 存続の場合 ①使用料見直しの検討 ②農園規模縮小の検討（木津川農園は市有地であるが、中央体育館東側農園は借入地のため赤字解消目的も兼ねて返却することを検討）	一部未達成・成果小	ふれあい農園の利用状況や、ふれあい農園の問題点・課題等を検証したが、具体的な見直し案を見いだすことができなかった。特に、近年においては、利用者の減少が顕著に現れており、来年度以降、中央体育館東側農園の借入地の所有者（2名）に対して、農地の返却も含めて話し合いをもつこととする。				